

袖ヶ浦市 ふみわき 文脇遺跡

文脇遺跡は松川に面した台地上にある遺跡で、昨年度の調査では戦国時代（15世紀～16世紀）の城館跡（じょうかんあと）が発見されました。今年度も、これまでに中世の竪穴遺構（たてあないこう）や掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもものあと）などが発見され、人々の生活がここで連綿と営まれていたことがわかってきました。

今回、直径約 65cm、深さ約 40cm の土坑（どこう）と呼ばれる穴から、大量の銅銭（どうせん）を発見しました。銭は約 100 枚を紐（ひも）に通して一組とした「緡銭」（さしぜに）と呼ばれる状態で、曲物（まげもの）に入っていました。これまでに約 2,900 枚を取り上げ、全体としては 7,000 枚程度になると思われます。

取り上げた銭のうち、36 種 352 枚の種類が現在までに判明し、唐銭（とうせん）・北宋銭（ほくそうせん）・南宋銭（なんそうせん）など、いずれも中国大陸からもたらされた渡来銭（とらいせん）であることがわかりました。時代がもっとも新しいものは「景定元寶（けいていげんぼう）」（初鑄年 1260 年）です。今のところ明銭（みんせん）は見つかっていないので、鎌倉時代～室町時代（13世紀～14世紀頃）に銭が埋められたと考えられます。今回の発見は、銭の蓄積・流通に関わる有力者階層の存在をうかがわせるものです。

一般的に中世の貨幣は、唐・宋・明銭を主体とした中国製の銅銭です。これらは平安時代末期頃から流入し始め、鎌倉時代には全国的に普及・流通します。千葉県内でも集落や墓など、多くの遺跡から銅銭は出土しています。しかし、まとまった数の出土は例が少なく、県内では 30 例程度です。しかも、その多くは工事中に発見されたため埋蔵状況の詳細が不明で※、今回のように発掘調査で発見されたことは、今後の研究に大いに役立つものと考えています。

※発掘調査での出土は、八千代市井戸向（いどむかい）遺跡の 660 枚が知られています。



地域の方に郷土の文化財を見ていただくため、急遽、現地説明会を開催しました(10/19)。



遺物を保護するため、全体を土ごと切り取って屋内に移動させる作業を10/20から開始しました。10/23には切り取りと移動を完了し、現在は調査事務所で厳重に保管しています。今後、出土状況を示すための複製の製作(型取り)、銭の取り上げと調査、曲物の検出等をおこなう予定です。



① 切り取る部分の外側を木枠で囲む



② 全体を発泡ウレタン樹脂で包む



③ 屋内に搬入



④ フタとなっていたウレタンを開いたところ